

※文字の大きさは Meiryo UI /12 ポイント以上とし、上下左右の余白は変更しないでください。
 ※各項目の枠の幅は変更可能ですが、必ず A3 用紙片面におさまるように作成してください。
 ※画像、写真、イラスト等は、用紙の中におさまるようにし、ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

【様式 2】

<p>研修成果の活用レポート/NITS 大賞エントリーシート</p> <p>※研修成果の活用レポートは、NITS 大賞エントリーシートと同様式です。NITS 大賞に応募される方は、推薦者への提出とは別に、<award@ml.nits.go.jp>宛て、メールにてお送りください。なお、メール送信後、3 日以上受領メールが届かない場合はご連絡ください。</p>	<p>※事務局記入欄</p> <p>受理No. : D-41</p>
<p>【学校名・氏名】 阿見第一小学校 山岡 治郎</p>	<p>【応募部門】</p>
<p>【修了研修名】 平成 30 年 第 2 回 中堅教員研修</p>	<p>校内研修プログラム</p>
<p>【活動名】「生徒指導のマネジメント」教員一人ひとり指導力を高める</p>	
<p>解決すべき課題：※活動を行う前に、どんな課題設定をしましたか？</p> <p>近年いじめによる自殺や学校事故など、痛ましい事件が起きている。これらを防ぐ生徒指導の役割は非常に大きいものがある。生徒指導は、組織的・継続的に行うことが重要である。</p> <p>本校は、教員の経験年数にもばらつきがあり、ベテラン教員に関しては、経験と勘で行動することがあるように見受けられる。また、若手に関しては、問題が起きてからの事後処理が多く、対応に追われている感じがした。</p> <p>危機意識と対応や予防のノウハウを共有し、教員一人一人の共通認識をはぐくみ、指導力を高めることが必要である。</p>	
<p>目標・方針：※課題を解決するためにどんな目標や計画、戦略や方針をたてましたか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ リスク管理表の作成（職員研修等でリスクマップの作成） ○ O J T（生徒指導におけるチーム力の向上） ○ 未然防止（安全確保、条件整備、学習環境の整備、学習活動の工夫） ○ 初期対応（学校生活アンケート、職員間の情報交換） 	
<p>活動内容：※何を行ったか、具体的に記載してください。</p> <p>第 1 回生徒指導研修（リスク表の作成）⇒生徒指導主事担当</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 校内研修において学校のリスク管理表を作成する。 <ul style="list-style-type: none"> ・各ブロックに分かれ教室や児童が遊ぶ場所など、死角になるような場所がないかを洗い出し、危険個所の共有を行った。 2 職層（ベテラン・ミドル・若手）を分かれ、それぞれの認識の違いや情報交換を行った。 <ul style="list-style-type: none"> ・様々な意見を出すことにより、違う視点からの考え方を共有することができる。視野を広げる。 3 全体で情報を共有する。 <ul style="list-style-type: none"> ・些細な問題でも、全体で情報共有し、一人の児童を全体で教育していく認識を高めることを共有する。 <p>第 2 回生徒指導研修（自己有用感をたかめるために）⇒特別活動主任担当</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 各学級で取り組んでいる取り組みを職層（ベテラン・ミドル・若手）ごとに話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・年代の違う意見を聞く。 2 全体での意見交換と発表。 <ul style="list-style-type: none"> ・効果的に自己有用感を高めるために、教職員一人ひとりがより細かく児童のことを意識し些細なことでも褒めたり、問題提起していく。 	



年度	件数
H29	35
H30	80

生徒指導認知件数は平成 29 年度 35 件に対し、平成 30 年度は 80 件であった。生徒指導に対する教員の認識が変わり、小さなことでも学年・ブロック・学校全体で情報を共有し問題解決に取り組むようになった。




活動の成果：※それによって、どんな成果が得られましたか？

- 生徒指導に対する意識の向上が見られ、学年間やブロックごとに問題解決のために意見交換が多くなるようになった。
- リスクマップを制作したことにより、教員一人ひとりの危機意識が高まり、校内の安全確認の際に、危険箇所を、より一層意識をするようになった。
- ベテラン・ミドル・若手教員との情報共有が行われ、学級活動や道徳に関して、学級差がなくなった。
- 全職員が「学校の主役は一人ひとりの子どもである」という共通の認識のもち様々な諸活動に取り組んだところ。少しずつであるが児童の「自己有用感」が向上した。

アピールポイント（アイデアや工夫）：

- 本校の生徒指導上の問題を全員が認識するために、画像や動画を使って生徒指導部担当者（若手教員）により、説明させた。
- 生徒指導力が学力向上（ディベート・グループワーク・ペアトーク）につながるように工夫した。
- 結果が数値的に目に見えなくても、その教員の行った努力を認め教員自身の自己有用感を高める工夫をした（職員研修で発表）。